

2021年度事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

公益財団法人 理想教育財団

2021年度実施事業の内容

事業区分一覧

事業	内 容
調査・研究事業	A-1 学校情報伝達システムの調査・研究 通信づくり講習会等、教師または大学の教職課程の学生を対象とした講習会の実施 学校における通信活動の教育効果についての調査・研究 いじめのないよりよい学級づくりの調査・研究(2021.4 A-3から移動) 調査研究活動の発表会等の開催
	A-2 教師による自作教材の調査・研究 学習プリントをカラー化することによる教育効果・視覚的効果などの調査・研究
	A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究 はがき新聞の教育効果に関する調査・研究 調査研究活動の発表会等の開催
情報提供事業	B-1 教育関連出版物の刊行 通信づくりに役立つ冊子等の刊行
	B-2 研究情報誌の発行 「季刊理想」の発行
	B-3 ホームページの運用 事業の告知や活動報告、情報開示のほか、プリントコミュニケーション活動に役立つ情報を提供する。
助成・顕彰事業	C-1 後援・支援の事業 臨書と自由書作品展の共催 文化芸術教育の充実に関する事業への助成、その他プリントコミュニケーション活動の発展に関わる事業への助成
	C-2 新聞教育の普及・振興 全国小・中学校・PTA新聞コンクールの後援 全国新聞教育研究大会の後援 地域の新聞教育に対する支援
	C-3 日本人学校等への支援・助成 海外日本人学校に対する児童図書寄贈 その他海外への教育支援
	C-4 コンクールの開催・顕彰 プリントコミュニケーションひろばの開催

【A】調査・研究事業

A-1 学校情報伝達システムの調査・研究

1) 調査・研究活動等

①中部学級力向上研究会(共催)	
日時	6月5日(土)
場所・参加者	名古屋市教育館+オンラインのハイブリッド運営 参加:会場14名、オンライン30名
内容	・愛知教育大学准教授 磯部征尊先生の講演 ・学級力向上プロジェクト実践報告等
②一般社団法人日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)総会参加	
日時	6月16日(水)13:00~14:00
場所・参加者	機械振興会館+オンライン運営
内容	・今後のICTの普及による教育のあり方の変化に対応すべく加入中。学校現場のICTの動向調査の一環として、また財団活動の参考団体として注視していきたい。
③公益財団法人助成財団センター主催「教育系財団交流会」参加(ZOOM)	
日時	7月13日(火) 15:00~17:30
参加者	20名
内容	・日産財団、博報堂財団、パナソニック財団等が所属。財団同士の情報交換や連携を図る財団との事。活動の参考情報収集のため参加。
④関西学級力向上研究会(共催)	
日時	9月12日(日)13:30~17:00
参加者	オンライン参加19名
内容	・事例2件の発表があった。(尼崎市立武庫東小学校 宇都亨先生、伊丹市立鴻池小学校 横山和伸先生) ・田中博之先生より学級力向上アンケートをタブレット入力し即グラフ化するプログラムの紹介があった。
⑤中部学級力向上研究会(共催)	
日時	9月25日(土)13:00~16:45
場所・参加者	オンライン参加max37名
内容	・事例4件の発表があった。(豊田市立堤小学校 永田眞子先生、愛知教育大学附属名古屋中学校教頭 今田宗孝先生、一宮市立木曾川東小学校 櫻井純代先生、北海道斜里町立朝日小学校 篠原諒伍先生)
⑥関東学級力向上研究会(共催)	
日時	1月29日(土)13:00~16:00
参加者	オンライン参加max41名
内容	・事例4件の発表があった。(新宿区四谷小学校 菊地友也先生、目黒区立八雲小学校 梶井綾先生、八幡市立中央小学校 中島大輔先生、調布市立若葉小学校 小松陽子先生) ・八幡小学校では学級力向上プロジェクトのPDCAにタブレットをフル活用しており反響の高い発表だった。
⑦中部学級力向上研究会(共催)	
日時	2月5日(土)13:00~16:25
参加者	オンライン参加max39名
内容	・事例4件の発表があった。(阿久比町市立南部小学校 鈴木光城先生他、名古屋市立笹島中学校 葉栗宏太先生、知立市立知立西小学校 成瀬雄志先生他、新潟市立大形中学校 坂井孝行先生) ・発表の中にタブレット利用の事例あり、今後アンケートや交流等での利用を促進させたい。

⑧関西学級力向上研究会(共催)	
日時	2月6日(日)13:00～16:30
参加者	オンライン参加max24名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事例3件の発表があった。(堺市立浜寺小学校 藤井幸一先生、堺市立金岡南中学校 奥田 雅史先生、尼崎市立武庫東小学校 宇都 亨先生) ・googleフォームを使った活用事例などの発表あり、タブレット利用事例として伝播させたい。

⑨関東学級力向上研究会(共催)	
日時	3月27日(日)13:00～16:00
参加者	オンライン参加max17名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事例3件の発表があった。(新宿区立四谷小学校 菊池友也先生、大田区立都南小学校 江袋勇樹先生他、文京区立小日向台町小学校 安部徹先生) ・田中博之先生から個々人の成長を補うアンケートの紹介があった。

2)調査・研究活動の発表等

①学級力向上プロジェクトオンラインフォーラム(主催)	
日時	11月13日(土)13:00～16:30
場所・参加者	日本橋スタジオ+登壇者はZOOM,視聴者向けはYouTubeの配信 視聴者max161名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・関東,中部,関西の各学級力向上研究会合同の実践事例発表会 《イントロダクション》 早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生 1. 学級力アンケートとレーダーチャートはこう使う 今治市立常盤小学校 明比 宏樹先生 2. 学級力はがき新聞を通した認め合う関係づくり 大田区立都南小学校 江袋 勇樹先生 3. 学年目標を基盤とした学年力向上プロジェクトの実践 調布市立若葉小学校 小松 陽子先生 4. 学校全体でいじめ・不登校防止に取り組む 大町立大口中学校 兼松 健太郎先生 5. 児童主体で高めあう学級づくりを目指して 伊丹市立鴻池小学校 横山 和伸先生

3)研修会・資料作成等

①初任者指導法の研究支援・冊子化	
日時	4月～5月
研究者	市川市立宮久保小学校 富永加代子先生他
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者指導教諭の富永先生作成の初任者向け指導内容をまとめた「初任者指導だより」の編集支援と公開資料化支援。

②愛知教育大学公開講座支援(講師派遣)	
日時	7月3日(土)13:00～16:00
場所・参加者	愛知教育大学 参加教員7名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は吉成勝好先生に依頼。(ZOOM参加) テーマ「はがき新聞で高まる語彙力と表現力」。本校からの講師派遣要請は継続しており定番化を図りたい。

③杉並区教育委員会 学校栄養士専門研修会(講師派遣)	
日時	7月28日(水) 10:00～12:00
場所・参加者	杉並区役所会議室 参加(会場)40名、オンライン16名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の栄養教諭向けの「給食だより」作成方法研修会に講師として吉成勝好先生を派遣。

④西東京市立本町小学校 教職員研修(講師派遣)	
日 時	2月4日(金)14:30～16:00
場所・参加者	本町小学校教室 参加18名
内 容	・本校が2023年に全国学級経営研究会全国大会の会場校になることから本校の中村校長から学級力向上プロジェクトを全教員にマスターさせたいとの要請があり田中博之先生を派遣。

A-2 教師による自作教材の調査・研究

「学習プリントをカラー化することによる教育効果や視覚効果などについての調査・研究」

- ・助成品として「2色プリントの活用事例」を配布した
- ・授業実践事例の作品集を作成

岩手県八幡平市立柏台小学校「地域や関係機関等と連携した防災・復興教育の取り組み」作品集制作支援他

A-3 児童・生徒による創作表現活動の調査・研究

「はがき新聞の教育効果に関する調査・研究」

調査・研究対象について
<p>*学習指導要領の「言語活動の充実」を図るため、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を高める教育手法として「はがき新聞づくり」を推奨。「はがき新聞づくり」は単なる行事、体験の報告に留まらず、多くの教科での活用が可能である。調査研究「コンパクトテキストによる文書表現力育成研究」の対象として、物語文以外に短歌俳句や特別の教科道徳を含むこととした。また「言葉のポケット」を併用し、現場での実証を行った。</p>

1) 主な活動状況(助成品支援)

①実践援助としての助成状況：特別助成校(プリンター付)、一般助成校(プリンター無し)2022年3月末現在			
	特別助成校	一般助成校	合計
小学校	378	1,408	1,786
中学校	190	856	1,046
高校・養護等※	14	72	86
計	582	2,336	2,918
2021.3末	587	2,192	2,779
増減	-5	144	139

*全国の小中学校(除高校大学)の累積普及率
2,918校 / 29,919校 9.75%

②はがき新聞等の推進活動

(1)新規助成品の開発及び終了	
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ①前期制作の「郵便はがき新聞」の利用法パンフ作成 ②壁新聞用紙(浅黄、桃)提供終了 ③助成品一覧のリニューアル

2) はがき新聞の教育効果についての研究委託

①研究テーマ「コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究」	
内 容	コンパクトテキストによる文章表現力育成の研究(「はがき新聞」を「コンパクトテキスト産出」型の取り組みとして位置づけ、学校教育の様々な局面においていかに応用できるかを考えるとともに、語彙教育への活用法を開発する)
実施期間	2021年4月1日～2022年3月31日
研究委託者	早稲田大学文学学術院教授 森山卓郎先生 1982年京都教育大学卒、1985年大阪大学大学院文学研究科博士課程修了、1988年同大学講師、1990年京都教育大学助教授、2004年同教授、2008年より附属幼稚園長を兼任、2012年より早稲田大学文学学術院教授、京都教育大学名誉教授。

②研究テーマ「はがき新聞用紙を活用したコンパクトライティングを位置付けた単元学習の方法」	
内 容	「主体的・対話的で深い学び」を実現する言語活動、特に書く事とのかかわりを考察し、はがき新聞用紙を活用したコンパクトライティングにより実現できる指導法について有効な提案を解明する。
実施期間	2021年4月1日～2022年3月31日
研究委託者	佐賀大学 教育学部 国語科教育 教授 達富洋二先生 離島の小規模公立小学校、都市部の公立小学校、国立大学附属小学校および小中学校など、約20年間の小中学校での実践を経て、現在は佐賀大学に勤務。長崎大学非常勤講師。九州教室の声に学ぶ会をはじめ、長崎、佐賀、熊本、鹿児島など、九州各地で研究会を主宰。

③研究テーマ「学級力を高める探究的な学習を取り入れた授業方法の開発研究 ～はがき新聞を表現ツールとして活用して～」	
内 容	子どもたちが主体的・協働的に学級づくりを行う力を育て、はがき新聞を表現ツールとして活用して新しい授業方法を研究開発してゆく。
実施期間	2021年4月1日～2022年3月31日
研究委託者	早稲田大学教職大学院教授 田中博之先生 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程在学中に助手となり、大阪教育大学助教授・教授を経て、2009年4月より現職。文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」委員(2007年～2018年)。専門は、授業デザイン・学習指導論。

3) 調査・研究活動等

①NIE全国大会札幌大会(オンライン参加)	
日 時	8月16日(月)14:00～16:30
会場・参加者	オンライン参加260名
内 容	・基調講演:梯 久美子氏(ノンフィクション作家) テーマ「歴史と出会うー新聞という回路」 ・公開授業8件、実践発表15件、特別分科会2件 計25件の分科会プログラムがあった。

②第65回全国特別活動研究協議大会 埼玉大会(オンライン参加)	
日 時	8月19日(木)～20日(金)
参加者	オンライン参加320名
内 容	・講演:安部恭子氏(文部科学省) テーマ「よさや可能性を發揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動」他、全12分科会において計24名の発表者による提案があった。

③はがき新聞実践校視察(はがき新聞オンラインギャラリー等の実践)	
日 時	3月11日(金)9:35～11:00
訪問先	新宿区立落合第四小学校 担任 梅澤 泉先生 校長 本間基史先生
内 容	・はがき新聞での授業にタブレットを利用。手書きの作品を各自撮影しサーバーにアップ。個々の作品へのコメントを全員が書き込み、活発な交流が図られていた。はがき新聞活用のモデルケースとして活かしたい。

④はがき新聞研究会(関東・関西合同)	
日 時	3月26日(土)13:00～16:30
参加者	オンライン参加max27名
内 容	・事例3件の発表があった。(酒田市立琢成小学校 齋藤真結美先生、尾張旭市立旭中学校 彦田泰輔先生、堺市立金岡南中学校 奥田雅史先生) ・その他提案2件があった。(鳴門教育大学大学院准教授 阪東哲也先生、大阪大谷大学教授 今宮信吾先生) ・第二部 「はがき新聞オンライン学習支援プロジェクト」について 全体の構想及び作成教科等について議論。継続審議となった。

4) 調査研究活動の発表

①理想教育財団はがき新聞オンラインフォーラム	
日時	8月28日(土) 13:00～16:30
場所・参加者	日本橋スタジオ+登壇者はZOOM,視聴者向けはYouTubeの配信 オンライン参加91名
内容	・はがき新聞研究会メンバー+αによる、はがき新聞授業実践事例発表会。財団主催のオンライン開催イベントとしては初の試み。 《イントロダクション》 早稲田大学文学学術院教授 森山卓郎先生 1. 「はがき新聞」基本の理解と授業への活用方法について 帝塚山大学 准教授 徳永加代先生 2. 書くために必要な語彙力の向上を目指して 酒田市立琢成小学校 齋藤真結美先生 3. 学級づくりと「はがき新聞」教科以外での活用事例 尾張旭市立旭中学校 彦田泰輔先生 4. 全校で取り組む「はがき新聞」 江戸川区立南篠崎小学校 堀口友紀先生 5. 交流タイム、質疑応答(閉会)

5) 研修会等

①国立三瓶青少年交流の家(島根県) 新聞をつくろう! ~さんべの体験を「My新聞」に~ (共催)	
日時	9月25日(土)~26日(日)
場所・参加者	三瓶青少年交流の家 参加は県内限定で6家族19名。講師はオンライン参加
内容	・交流の家の希望もあり財団は共催となった。財団から講師として帝塚山大学准教授 徳永加代先生の参加と、はがき新聞素材一式(筆記具貸与)提供。 ・25日9:30~①親子で体験活動 ②夜は天体観測等 ・26日は はがき新聞/家族新聞作成 15:00終了

【B】情報提供事業

B-1 教育関連出版物の刊行

①刊行物の発行・増刷
・既存刊行物の増刷

B-2 研究情報誌の発行

①機関誌『季刊理想』の発行
・6月(夏号)9月(秋号)12月(冬号)3月(春号)発行。読者拡大のため多彩な記事を掲載するよう新規助成品の紹介や、またエッセイの寄稿者選考への配慮など紙面の充実を図った。

B-3 ホームページの運用

①常に新鮮な情報をアップ
・助成物品申込システム更改 ・各種助成品の紹介や、申し込み窓口としての機能充実を図った。

【C】助成・顕彰事業

C-1 後援・支援事業

①臨書と自由書作品展 主催 児童の書を考える会(共催)	
日時	4月1日(木)~4日(日)
場所	東京都芸術劇場 5F展示ギャラリー 来場者416名。
内容	・受賞者が来場の都度、会場にて表彰式を行った。(東京都教育委員会賞、理想教育財団賞他)

②令和3年度横浜市立学校総合文化祭(協賛)	
日 時	12月より各分野ごとに開催
内 容	協賛金拠出(開催ポスター制作代等の補助)
③第5回はがき筆文字展・巡回展(協力)	
日 時	9月1日(水)～4日(日)
場 所	東京都芸術劇場 5F展示ギャラリー
内 容	・「書統」展に併設。筆文字文化の振興・発展を目的に開催。運営費補助。

C-2 新聞教育の普及・振興

①千葉県新聞教育研究会例会(会長 小嶋享治先生)	
日 時	①4月14日(水)18:00～20:00 ②6月5日(土)17:00～19:00
場 所	全日警ホール2階会議室
内 容	①全国新聞教育研究会の全国大会千葉大会8月は順延決定。よって千葉県だけの開催を検討。 ②夏季大会は8/17千葉新研のみで夏季研修として開催決定。

②千葉県新聞教育研究会 夏季研修(後援) ※全国新聞教育研究会全国大会中止に伴う開催	
日 時	8月17日(火)9:00～17:00
場所・参加者	全日警ホール1階ホール 30名
内 容	・事例発表4件:はがき新聞を利用した授業実践報告。報告の中にGIGAスクール構想で配布されたタブレットにてメンチメーター、AIテキストマイニング、ワードクラウド等を利用した授業実践例の発表があった。

③沖縄NIEセミナー(講師派遣)	
日 時	10月23日(土)14:00～16:00
場所・参加者	琉球新報社会議室 22-24名
内 容	・好評にて連続開催となった「はがき新聞」制作セミナー。本年はオンラインにて実施。講師は大阪大谷大学教授に依頼。

④とちぎNIE研究会(講師派遣)	
日 時	11月27日(土)14:00～15:30
場所・参加者	宇都宮東市民センター 11名
内 容	・とちぎNIE研究会からの要請にて「防災はがき新聞のすすめ」の講演を実施。社団法人日本新聞協会の関口修司先生に依頼。市教委幹部の参加もあり高い評価をいただいた。

⑤東洋大学文学部 教職実践演習 第1回目「はがき新聞講座」	
日 時	11月29日(月)14:00～15:30
場所・参加者	東洋大学 教室 参加36名+オンライン参加3名 計39名
内 容	・講座内容は4月に教職についての場合を想定した“自己紹介新聞”の作成。学生の内およそ7～8割の学生が何らかの教職に就くとの事。講師は新聞教育支援センターの吉成勝好先生に依頼。

⑥東洋大学文学部 教職実践演習 第2回目「通信講座」	
日 時	12月13日(月)13:00～14:30
場所・参加者	東洋大学 教室 参加42名+オンライン参加2名 計44名
内 容	・11月の講座に続く第2弾。学級通信づくりの意義～具体的な制作までの指導を実施。講師は引き続き吉成勝好先生に依頼。

⑦第32回北海道十勝新聞教育研究会 兼 第20回NIE十勝地区セミナー(講師オンライン派遣)	
日 時	2月19日(土)9:45～11:30
場所・参加者	オンライン開催。Max21名参加。
内 容	・研究会事務局より要請があり、佐賀大学の達富洋二先生を派遣。テーマ「新聞を活用した言語活動が創造する深い学び」を講演いただく。

C-3 日本人学校等への支援・助成

①海外日本人学校等への支援・助成	
内 容	公益財団法人海外子女教育振興財団との連携により日本人学校、補習授業校、補習校へ児童図書を送る。
寄贈先	海外子女教育振興財団と今期の図書寄贈先について検討。日本人学校、補習授業校の情報を基に10校を決定した。シドニー日本人国際学校(オーストラリア)、ドーハ日本人学校(カタール)、オタワ補習校(カナダ)、ジャクソンビル日本語学校(米国)、ミネアポリス日本語補習授業校(米国)、ユタ日本語補習校(米国)、マンチェスター日本人補習授業校(英国)、ティルブルグ日本語補習校(オランダ)、コペンハーゲン日本人補習校(デンマーク)、アルザス補習授業校(フランス)
②ネパール教育支援	
内 容	・チャンドラ・キラン基金あて援助の継続(寄附金及び印刷補助)

C-4 コンクールの開催・顕彰

①第17回「プリントコミュニケーションひろば」の開催(1年延期)	
経 過	<ul style="list-style-type: none"> ・予算縮減の為、2020年度募集は中止とし、今後のネットワークインフラの進化による通信事情の変化を見据え、コンセプトの再構築をした上で2021年度募集分より再出発を図った。 ・12月再スタート(HPでの告知及び1月からチラシ配布開始) ・4/4現在192作品 ① 学級・学年通信の部 118作品 ② 学校だより・校長通信の部19作品 ③その他の通信の部 51作品 ④ 電子媒体を使った通信の部 4作品
②「コロナ禍でも発行を続けた通信」刊行	
経 過	<ul style="list-style-type: none"> ・第16回プリントコミュニケーションひろば「ふり返り」(2021年3/6最終審査員の会議)にて審査員からコロナ禍の2020年度分の通信こそ収集すべきであるとの提案があり、急遽「コロナ禍でも発行を続けた通信」の企画実施を決定。3/30～4/30に作品を募集(60作品応募)。5/1～7/30作品内容のチェック及び編集終了。8/31刊行。

その他の事項

①理事会・評議員会

- 第46回理事会 5月26日(オンラインによる開催)
- 第47回理事会 6月17日(書面決議)
- 第11回定時評議員会 6月17日(オンラインによる開催)
- 第48回理事会 11月18日
- 第49回理事会 3月24日(オンラインによる開催)

②6月30日 五十嵐顧問退任

③新規事業について

本件については、2021年度の事業計画書では「調査活動として継続する」とした。しかし当年はGIGAスクール構想による子ども一人一台の端末配布とコロナ禍による在宅学習等の急速な拡大により、学校現場に大きな変化が生じた。一方、当財団の事業はほとんどが紙を使うアナログ的な事業であり周回遅れの感あり、はがき新聞等の研究活動にもデジタルの良さを活かした改善を施すことを最優先とした。結果的に新規事業については具体的な検討に着手できなかった。よって新年度、新スタッフを交え再検討したい。